

令和4年度 基本方針

芦屋市自治会連合会は、自治会・町内会が地域コミュニティの核であることを再認識し、団体間での交流を促進することで、住みよいまちづくりを目指します。

芦屋もかつては地域に住む住民同士の交流が盛んに行われていました。しかしながら、近年、地域での交流は希薄化が進んでいます。そのような中で、令和元年頃からの新型コロナウイルス感染症の流行により、人との交流機会が制限され、地域内での関係性の希薄化にも拍車をかけました。

「おはようございます」「こんにちは」こういった挨拶は地域の人たちが声を掛け合い、交流する第一歩です。近隣の方同士「お互い様」の関係を構築できれば、住みよいまちづくりに繋がります。

自治会組織同士においても同様です。まずは、近隣の自治会・町内会が交流することで、地域の中だけでは解決できないような課題にも、知恵を出し合い、協力して取り組めるような関係づくりを進めます。

その取り組みの一つとして、芦屋市自治会連合会において、市内を13地域に分けて進めてまいりましたブロックの活動について、活性化を図ります。

これまでの各ブロックの活動は、自治会連合会内での取り決め事項などに関する情報の共有が主な機能でした。これからは、この場を情報の共有だけでなく、交流できる一つのきっかけと捉え、各ブロックの活性化に取り組めます。

これらの取り組みを進めることで、地域活動の促進を図り、災害等、非常時での「共助」の体制づくりを目指してまいります。